

青梅市文化財ニュース

第 2 3 9 号

平成 1 9 年 9 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

幻の蝶コムラサキに復活の兆し

近年は、暖地性の蝶が北上して分布を広げています。暖冬の影響により越冬できる地域が広がったためです。青梅市でも、ツマグロヒョウモン、クロコノマチョウ、ムラサキツバメ等これまで生息していなかった蝶が見られるようになりました。

他方、1970 年代から、都市化や草原性環境の減少、若い雑木林の減少等により、生息環境が失われてかなりの種類の蝶が衰退している傾向は続いています。多くの種類では、生息環境の変化により食草がなくなったり衰退の原因は分かっています。

ところが、原因不明のままに姿を消してしまった蝶もいます。その一つがコムラサキです。中型のタテハチョウで、オスは翅の内半分に陽が当たると紫色の幻光色を発する印象的な蝶です。オオムラサキに較べて小型なので、コムラサキという和名が付いています。幼虫はヤナギの葉を食べて育ちます。

青梅市に生息していた頃も、数の多い蝶ではありませんでしたが、河川の周辺に生息し、千ヶ瀬や駒木野の多摩川の河畔の林では、毎年、ヤナギの梢を滑空したり、クヌギやコナラの樹液に来る姿を見かけることができました。民家の脇のシダレヤナギで発生が確認されたこともあります。これは 1960 年代前半までのことです。その後、1970 年代にはほとんど記録もなくなり、青梅市で最後に確認されたのは 1979 年の吹上地区での記録です。

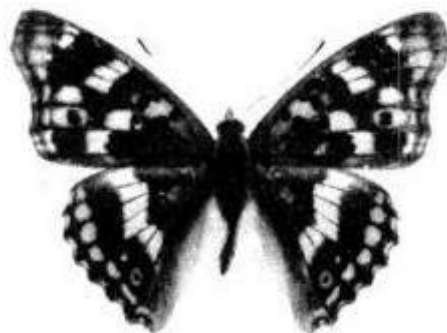
この傾向は東京都全体で見られたことです。以前は多摩川の中・下流を含めて広く分布していましたが、徐々に生息域を狭め、1990 年代には、都内に残る生息地は奥多摩町の山間部の溪流沿いと荒川下流の葛飾区の河畔林だけになってしまいました。他の地域では絶滅したと見なされました。狭山丘陵には 1990 年代も残っていたとの報告もあるので、細々と生き残っていた場所はもう少しあったかもしれません。「東京都の保護上重要な野生生物種」（1999）のリストにも掲載され、「都市化による水郷地帯の減少、河川改修工事による氾濫原の減少が生息地を急速に狭めたと考えられます。」と

（裏面に続く）

されています。荒れた河川の河畔林がコムラサキの好む生息環境ですが、河川改修工事等の後もヤナギの木や林がなくなってしまったわけではありません。食樹となるヤナギは残っているのにコムラサキは姿を消し、この原因ははっきりと分からないままでした。

3 年程前に、港区でコムラサキが再発見されました。その後、小金井市、日野市、あきる野市の多摩川河川敷の周辺でも再発見され、狭山丘陵周辺でもぽつぽつと記録が出始めました。そして今年の 8 月、青梅市でも小曾木地区で 1 頭のオスが採集されました。実に 28 年ぶりの記録になります。休耕田の跡地に成立したヤナギ林が新たな発生地になるのかもしれませんが。注意してみてください。

(文責 久保田 繁男)



コムラサキ